（別紙4）　　平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4390500033		
法人名	医療法人すえひろ会		
事業所名	グループホームこうらく		
所在地	熊本県水俣市浜町1丁目12番9号		
自己評価作成日	H28年1月5日	評価結果市町村受理日	平成28年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	平成28年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

水俣市の住宅街に位置し、近隣には八百屋・ケーキ屋・味噌やがあり生活するうえで便利な場所にある。タクシーやバス停留所も近くにあり交通の便もよく立ち寄りやすい。水俣市医療センターが近くにあり、緊急搬送の安心にも繋がっている。近隣の方が庭の草花の手入れや家庭菜園など進んで手伝われ、季節の花々が咲き入居者の気分転換にもなっている。又気軽にホームに立ち寄られるなど交流も盛んである。近隣の方との絆を大切にし、入居者のペースで過ごせるよう、又、入居者の思いに寄り添うケア・笑顔あふれる暮らしを心がけ支援している。法人内の研修はもとより、外部研修にも積極的に参加し質の向上に努め、地域に密着した事業所づくりに努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

平成23年に開設されたホームは101歳を筆頭に高齢化の中でも、個別支援の追及に向け固定観念にとらわれず、日々の生活に自由な時間と楽しめる時間を作り、"今"だからこそ出来ることに真摯に取り組んでいる。管理者を中心として、職員同士の風通しの良い職場環境はアイデアも豊富であり、今年度初めて開催した"こうらく文化祭"は入居者の出来る力の発揮や、地域住民の訪問に繋いだばかりか、地域への啓発として確固たる基盤作りに生かされている。医療法人のバックアップ体制と、このホームで最期までとの入居者の強い希望に、看取りケアを見据え、ホーム内外の研修や支援方法を明確にし、家族・主治医等との連携により終末期体制を整えている。認知症状は進行しても、自分の意思を持ち続ける入居者の姿に、目標とする「寄り添い、支え合う看護・介護の実践」、及び「私は、わたしなりに　生きてゆきたい」が表れている。職員の研修意欲の成果が、地域への還元として生かされるものと大いに期待されるホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

事業所名：グループホームこうらく

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員全員で考えた運営理念に基づき、入居者の思いに寄り添うケアを心がけている。理念をよく見える場所に掲げ全職員に理念が浸透できるように工夫し、支援のあり方の見直しを行うなど理念の共有に努めている。	「私は、わたしなりに　生きてゆきたい」を大前提に、地域とともに寄り添い、心豊かな暮らしを支えることを理念として、言葉の表現も厳しい中で、あせらず、ゆっくり、個々に支援している。開設して5年、職員同士が助け合い、実践を通じてケア向上を図る等、目標として掲げた「寄り添い、支えあう看護、看護の実践」も全員に浸透している。100歳を過ぎても自分の意思を持ち続けられる姿は、その人なりの生き方とホームを選んでくださる思いに職員も応えており、理念が根付いているホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板受け渡しや日常の挨拶、八百屋での買い物など継続した関わりを大切にしている。近隣の保育園児との交流や中学合唱部との交流も継続できている。秋の小文化祭には近隣の方が見学に来られたり、作品も出展して下さるなど関係ができてきた。	入居者の持つ力を生かしたいと初めての試みとして"こうらく文化祭"の開催は、回覧板により啓発が行き届き、住民の展示や見学に繋がる等、地域の中での基盤づくりに生かされている。隣近所との良好な関係性は、継続して庭の環境整備や運営推進会議、防災訓練へ参加される住民の姿に表れている。また、保育園児・小学生の社会科見学、中学コーラス部の訪問等世代間交流を継続している。ホームも自治会へ加入し、大掃除や回覧板の受け渡し等1軒の家として活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ向けた認知症の人の理解に対する発信はまだまだ不十分である。運営推進会議に参加されている地域住民の方には症例を通して支援の内容を伝えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で入居者の事例報告や行事、活動、研修状況の報告を行っている。市や包括支援センターからの情報や気づきを取り入れ、質の向上に努めている。	運営推進会議開催にあたり、議題を提示して案内しており、会議の意義を明確に捉えており、双方向の意見交換が行われている。この会議の中で防災訓練として避難誘導を組み入れ、提案事項である入居者の歩行状況を明記（居室入り口）している。また、行政からは時節に応じた情報発信（インフルエンザ・物忘れ無料相談と熱中症予防等）や、行政と自治会長等が顔を合わせる絶好の機会でもあり、地域情報の相談やアドバイスが得られている。	運営推進会議のメンバー構成や、情報交換が充実していることは議事録より確認できた。また、参加者とともに防災自主訓練を行う等工夫もされており、訓練を生かすため、及び課題とする非常口の設置を検討するために、消防署や消防団の参加を検討されることも一案である。会議内容により、その都度参加メンバーを検討されても良いと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域密着型会議を通し、情報交換や相談を行い関係を築いている。市からのFAXによる情報提供には必ず目を通し必要に応じて回答を行っている。	介護保険サービス事業所向けアンケート調査や研修等FAXにて情報を得たり、サポートセンターとして入居相談の報告など地域包括支援センターと協働している。2ヶ月毎に開催される水俣6事業所での地域密着型会議や水俣・芦北地区の"認知症のこれからを考える会"の中での意見交換、運営推進会議の中で介護保険改正や市の取り組みの説明もあり、各関係機関との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束委員会で行う全体研修に全員参加もしくは伝達講習にて、高齢者の身体拘束をしないケアに取り組めている。日中玄関は開錠しているが安全に過ごせている。ミトンなどの拘束はしていない。	毎年繰り返し勉強会を行うことで意識強化を図り、身体拘束廃止委員会の中で検討や、報道の事例検討、言葉使い「ちょっと待って」等にはその都度全員で考えている。転倒の危険性には人感センサーの設置や、車いす利用でも座りっぱなしにしないケアに取り組んでいる。玄関は開錠し、抑制の無い自由な環境の中で、落ち着いて生活されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人で行う高齢者虐待防止に関する研修には全員参加し、不参加者には伝達講習を行うなど徹底している。委員会で検討事項として言葉使いのあり方など考える機会もあり、虐待が見過ごされないように浸透している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で行う権利擁護の研修や市からも情報提供があり学ぶ機会はある。成年後見人制度は必要性に応じ活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に沿って丁寧に説明を行い疑問点がないか確認しながら契約を締結している。法改正においても重要事項説明書に沿って随時説明を行い理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で家族代表として意見や要望を話す機会を設けており、市や包括、地域住民に表せるようにしている。家族や入居者とゆっくり話をする時間を設け言葉の中から意見や要望を受け運営に反映させている。	入居者と職員との良好な関係が築かれており、直接要望を出され、随時個別支援している。また、家族の訪問時には近況説明とともに意見や要望を聞き取りし、ケアへの要望は申し送りノートにより共有している。家族が輪番（1年毎）で参加される運営推進会議や、家族会を開催しているが、家族からは感謝の気持ちが多く出され、ホーム側も家族に要望を出してほしいことと投げかけている。家族から協力することはないかとの申し出もある。次回はさっくばらんな意見交換等家族会を工夫する意向である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のこうらく運営会議で意見や要望を聞く機会を設けて行事内容を決めている。又、なるべく短時間でも職員同士コミニュケーションをとり要望や意見が聞けるようになって事がすすんできた。	管理者及び職員同士は常にコミュニケーションの中で、意見や要望を出し合いながらケアサービス向上に努めている。また、毎月の運営会議の中で、業務改善や記録方法の検討等合議により決定している。また、法人で委員会活動や研修に積極的に参加し、法人としても研修参加を推奨している。職員の離職も無く、風通しの良い関係が築かれている。	職員は積極的に研修に参加されている。更には職員のスキルの還元も視野にした運営に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現段階では業務改善に通り組み労働環境を整えている。休みや夜勤のバランスを考慮した勤務割表で心身的に安定した労働環境は整ってきつつある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に限らず外部研修の案内には、職員の学びたい研修に積極的に声をかけることで参加が多く見られるようになってきた。院内研修では事例を挙げた研究発表に取り組むことができた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業者同士での会議や研修の場での意見交換を行なったり、同事業者の交換研修をとおし、よいところを取り入れている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報を家族から聞き取りながら本人の心身の状態を把握できるように努めている。不足する情報についてはゆっくり本人と話をし信頼関係を築くことからはじめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時の本人の状況や困っている事をしっかりと丁寧に聞いている。家族が安心されるように話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活するうえで食べ物の好き嫌いや排泄、睡眠への支援などを聞きながら対応している。導入初期に必要があれば他のサービスも検討してゆく予定である。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の生活を共に過ごしながら信頼関係を築き、料理の方法や社会の中での生き方、ヒントを教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	文化祭には家族と一緒に料理を作ったり、作品を展示したりと協力して欲しい事は、家族にも相談し共に本人を支えていく関係を築いている。家族から電話で希望を言われた時は内容に沿って支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生まれた場所に連れて行ったり、思い出の場所に行くなど支援に努めている。	かかりつけ医の継続、遠方からの訪問時には実家への外出や外食、盆・正月の帰省等家族の協力により支援している。これまで築き上げてきた関係が途切れないように、情報を把握し支援しており、、外出先が思い出を引き出したり、観音様参りでは近隣住民との歓談が叶ったケースもある。また、家族や友人、教え子等訪問も多く、夫婦での入居や職員との馴染みの関係性も深いホームである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、利用者同士トラブルにならないように席替えをしたり、職員が間に入るなど関係を保っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から遺品の後始末の相談や書類の整理上の相談、郵便物の送付など相談があり支援に応じている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴の希望があった時には本人の希望に沿って行っている。誕生日には好きな物を聞いたりして食事の提供を行っている。話しをよく聞いている。	職員は入居者目線でよく会話を交わし、寄り添いのケアの中で個々の思いを引出している。発語困難な状況に片言の言葉を聞きもらさず、手振りでの会話や、意欲を引出す声かけによりやる気を引出している。また、うなづきや表情、特に笑顔をバロメーターとして捉えている。入居者の"お通夜に行かないと"や"今行こう"という言葉に応え、職員2名とで支援する等本人の思いに応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生育暦など今までどんな暮らしをしてきたのか、本人や家族より聞き把握に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活をおくり一緒に関わる中で、本人の一日の過ごし方やその時の場面に応じた心身の状態、出来る能力を把握し、職員間で情報を共有しながら支援することに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営会議やカンファレンスを行い必要があれば家族や医療機関とも話し合いながら現状に応じた介護計画に結びつけている。職員間の情報の共有はもとより工夫も出し合って計画に生かしている。	入居者の"ゆっくり自分のペースで生活したい"との思いに、家族への随時の報告や相談、体調管理の徹底が楽しい生活に繋がる具体的且つ詳細な実現可能なプランが作成されている。毎月の会議やケアカンファレンス、ケアマネジャーによる3ヶ月毎のモニタリングの他、全職員に課題を聞き取りし、プラン変更に反映させている。また、ケア統一に向け,日々の介護記録に計画書を添付し、実践の具体的な記録も、プラン見直しに生かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って日々の様子やケアの実践、気づきなど記録している。記録できない時間にはメモに残して、後で振り返るなど見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要性に応じて、本人にとって良いことは柔軟に支援してゆく必要があることを考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事ごとの保育園児の慰問や中学生の合唱、小学校の社会科見学などをとおして地域との交流も増えつつあり、笑顔で対応されるなど楽しむことが多くなってきた。豊かな地域の資源をこれからも活かしてゆく。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診はもとより、急な受診も家族との連絡を密に行い、本人の状態に応じた受診を行っている。介護情報提供を行い、相談するなど医療との連携もとれている。	これまでのかかりつけ医を継続して支援しており、月1～2回の定期受診をホームや家族で行っている。情報提供書は、本人の前では控える内容もあり先に医師へ渡しておくなど配慮されている。歯については不具合があった時に協力歯科医による往診、もしくは家族による受診が行われ、職員は食後の歯磨きや義歯の管理など口腔ケアの面から健康をサポートしている。また、感染症委員会による研修会や、インフルエンザなどの時期に限らず、手すりを含めたホーム内の消毒など衛生管理が徹底されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化を見逃さず、皮膚の状態など細かい報告ができている。必要があれば様子観察しながらも早めに受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に関しては家族と話し合い、介護サマリーを作成し情報提供を行い、経過を見守っている。もとの生活に受け入れられる本人の状態を伝え、なるべく早い退院ができるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と家族の強い意思の基、終末期についてどうするのか話し合いを行っている。看取りの勉強会も頻回に開き、方針を共有し支援に努めている。	看取りに関する勉強会を開催し、方針を共有しながら支援にあたっている。入居者の中には、自分の意思でホームでの最終を言葉で伝えられる方もあり、それに応えるために意識を高く持ち、研修会や医師の指示、連携を深めることで体制を整えている。管理者は、今後も本人・家族のその時々の思いを受け止め、医師の判断や職員と話し合いながら方向性を決定していきたいとしている。	入居時にはリスクについて口頭で伝えているが、今後は書面での説明も必要と思われる。家族の信頼も厚くできる限りホームでの時間を希望されており、今後もその方らしい時間の提供に継続して取り組んでいかれることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人での研修に救急蘇生法をデモンストレーションし訓練を受けている。実際にあった事案を振り返り方法を話し合っている。初期対応の訓練は今後必要である。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練に夜間を想定した訓練を行っている。近隣の協力は今後の課題であるが、消防訓練時に道を通る人に訓練を問われるなど関心はあるので徐々に巻き込んでゆく。	夜間を想定した消防訓練を年2回実施し、11月の訓練では、避難誘導のスロープ設置について指摘を受け、今後の検討課題となっている。運営推進会議の中で、避難誘導を自主訓練で開催し、意見交換が行われており、居室入口には、個々の歩行状態（独歩・車椅子など）がカードで明示している。職員はKKT(危険予知トレーニング）研修会などにより安全管理への意識を高め、備蓄はホーム内で水や食料・乾電池、ペーパータオルなど三日分を確保し、居室用の懐中電灯も準備されている。また、週1回のシーツ交換時には環境整備の一つとして、コンセントの埃などもチェックしている。	今後は運営推進会議に消防署員の参加を依頼し、その中で訓練を実施されることも有効かと思われる。また、近隣・地域の職員が少なく、今後も地域や法人の協力体制の強化が必要と思われる。取り組みに期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉使いをしている。	入居者の呼称は苗字や本人が馴染んでおられる下の名などその場に応じて対応している。また、丁寧な言葉使いを心がけ、幼稚な言葉など気になることがあれば、管理者はその都度指導している。朝のモーニングケアでは、好みの衣類を選択したり、連続で着ることがないようサポートしている。個人情報の使用について家族の承諾や職員の守秘義務についても周知を図っている。職員は入居者一人ひとりのこれまでの人生に敬意を払い、「私は、わたしなりに　生きてゆきたい」という理念にそった支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の着替えや戸外散歩、お茶下さい、お茶はもういらんなど言われ希望に応じている。自分で自由に起きたり寝たりされ自己決定されることを支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外に出たいという人には一緒に出掛け、休みたいという人には休んでもらう、トイレは今はいいという人には後で声かけるなどその人のペースで過ごしてもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗面介助や口腔ケア、出かける時は洋服を選んだり、、男性の場合は髭剃りができているか身だしなみをきちんと確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の食材で下ごしらえなど一緒に行っている。季節の山菜料理の下ごしらえなど本人の力に応じてしてごしらえを行っている。後片付けは腰が痛かったりと、一緒に出来ていない。	法人で作成された献立を基本に、デッキで育てた野菜(ゴーヤ・オクラ・なす・ねぎ等)も活用し、ホームでアレンジするなど工夫した料理が提供されている。食材は配達が主であり、地元商店を活用(鮮魚・精肉など)し、調味料にも安心・安全なものが使われている。入居者から"野菜は小さく切って欲しい"や誕生会での好みのメニューなど希望を聞き取り、もやしの根切りやインゲンの筋取り、竹の子・ツワの下ごしらえなど食へ関わることで楽しい食事支援に繋げている。職員も同じ物を食べることで思いを共有し、介助や見守り、会話をしながら一緒に摂っている。	季節を味わえる竹を使ったソーメン流しや行事食等様々な食事が提供されている。食事の雰囲気を損なわないよう、台所の後片付けは時間をずらすなど工夫されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立に基づいてバランスの良い食事の提供が出来ている。必要な人には水分量を測り摂取を促している。その人の嚥下状態に応じ食事形態を考え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはその人の力やできることをみきわめながら行っている。できてそうで確認が必要な人には言葉に注意し声かけし、入れ歯の清潔状態を確認し必要に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレを何回も希望されてもその都度対応している。個々の排泄パターン、タイミングや排泄にかかる時間、特徴をとらえながらなるべくオムツを濡らさない支援を行っている。	職員は、尊厳やプライバシーに配慮しながら、声かけ・誘導、自立の方の継続に努めており、日中は布下着にパットの方もおられる。また、パットの使用を工夫しながら、感染症に繋がらないよう排泄を支援している。夜間は声掛けによるトイレ誘導やオムツ、ポータブルトイレなど個々に応じた支援である。日中は使用しないポータブルトイレにはクロスが覆われている。トイレ内は臭気もなく、入口にかけられた"使用中の札"を自身で替えられる入居者の姿など、自立へのサポートが伝わってくる光景であった	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように十分な水分摂取に心がけている。又栄養士の献立に沿ったバランスのよい食事の提供を行ってる。なるべく歩く工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望をあらかじめ聞いて入浴日を決めている。浴槽に入りたくない人にはシャワー浴にしたり、受診日は疲れるので翌日にするなど無理のないように体調にあわせて支援している。	入浴はあらかじめ入居者の希望を聞き取り、週2～3回や毎日などの支援が行われており、明るい浴室内は掃除ノートで清潔に管理している。浴槽へ入りたくない方へはシャワー浴、疲労への配慮から受診日は翌日の入浴へ変更するなど、個々の状況に応じて支援している。また、柚子や入浴剤など香り湯も楽しんでいる。	清潔な浴室内であり、安全面から洗剤は別の場所で管理されることが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は声をかけながら適宜休息を促している。まだ寝たいという人には時間に関係なく休んでもらっている。心地よい休息ができるように環境調整を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情はいつでも見れるように内服支援を行っている。内服の服用経過を見ながら変化があれば適宜医療に結びつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな人は一緒に歌ったり、新聞の好きな人には記事を一緒に読んだり、又野菜を植えたり、花の鑑賞や近隣の保育園児を見に行ったりなど個々の楽しみごとを支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常ではないが、季節の花見や祭りには一緒にスタッフと出掛けている。家族の支援は出来ているが、地域の支援は出来ていない。	季節や天候の良い時は、小学校や役所を眺められる川べりに出かけ桜やカモ見学など近隣で身近な外出を楽しんでいる。車両や運転など法人の支援によりドライブ外出も楽しめている。また、家族の協力として現地集合でバラ見学への参加や、帰熊時の面会で一緒に散歩や外食なども行われている。全員での外出は難しくなっているが、安全や緊急対応の面から職員が2名体制で個々の状況や希望に応じた外出に取り組んでおり、訪問当日も自宅が気になる方への外出支援の場面があった。	職員2名と自宅の確認をして帰って来られた入居者の表情は穏やかで、庭先に咲いた梅の花を持ち帰り、直ぐに花瓶に活けるなど職員の細やかな配慮である。今後も家族の協力も得ながら、入居者の笑顔を引き出す外出が継続されていくことを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金をある程度預かっているが、本人と一緒に買い物に出かけたりは出来ていない。生活用品に関しては家族に断って買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけてくださいとお願いされる時は取り次いだりしている。自ら年賀状を書くことが出来ない人には、代筆で年賀状をだしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広く、明るく、分かりやすく又、季節に応じた温度調整を行い快適に過ごせるように工夫している。季節がわかりやすいようにデッキには野菜や草花など見えるようにしている。	明るい共用空間は季節や入居者に応じて温湿度管理を徹底し、101歳をはじめとして独歩の方も多く安全な環境に十分配慮している。入居者や保育園児の作品・外出時などの写真の掲示は、季節感を提供するギャラーとして活用されており、本人の励みや家族の楽しみにも繋がっている。また、足踏みオルガンやテレビなどが置かれた居間には、職員も持ち寄った本が多数棚にあり、書物好きな入居者が「ここは俺の部屋じゃ～！」と発せられるなど、居心地のよい時間を持たれている。	モダンな外観と開放感のある室内で、入居者と職員が穏やかな時間を過ごしている場面が見られた。ホーム内には写真や作品の掲示、置物など多種飾られており、定期的な確認（季節感や損傷等）をしていただきたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	夫婦は別室で過ごせるようにテレビのある居間の場所を選んでいる。食堂にはソファーを配置してはいるがソファーに座る人数が限られており今後工夫が必要である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が掲載されている新聞の切り抜きを貼ったり、書道や折り紙を貼ったりして、本人が居心地いいように配置を考えて工夫されている。	持ち込みの品については、家での生活に近い環境が安心され居心地良く過ごせることを伝えている。居室はリビング食堂を中心にして左右に配置されており、入口の戸には室名の花（チューリップ・すずらん等）がステンドグラスで表示され、中には自室がわかるよう目印が付けられている箇所もある。書や家族との写真、ご自身が掲載された新聞記事の掲示など、趣味や特技、一人ひとりのこれまでが大切にされた空間である。入居後も衣類や足の保温マットなど家族の協力により季節に応じた持ち込みが行われている。職員はエアコンについても夏・冬で掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に時計やカレンダーをおき、その日に丸を付けている人もいる。難聴の人には入浴日を書いた紙を貼り個人が準備できるようにしている。トイレには使用中など札で目印をして分かりやすいようにしている。		